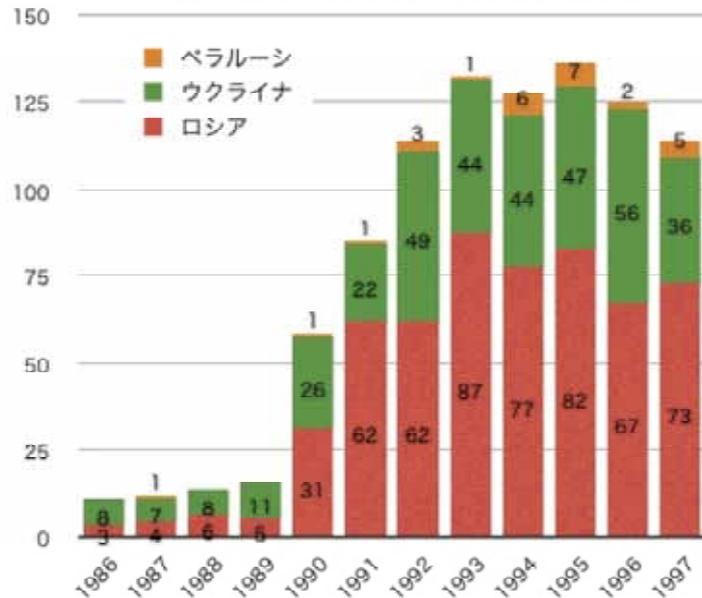


Q：甲状腺障害で10歳以下子供ほど発症例が多いと聞きましたが、チリノブイリ原発事故での発症例を教えてください。

A：1985年4月26日ソ連邦内チリノブイリ原発事故発生、大量の放射性灰、チリが飛び散った。事故当時クリムリンでは書記長チェルネンコは病床に臥し、次期ゴルバチョフに権力が委譲始めた頃で混乱していたせいなのか、この世界的な大事故を公表しなかった。そして、チリノブイリ原発事故の後、5～6年してベラルーシで多くの子供が甲状腺異常が発症し大問題になった。

事故当時14歳以下の子供の甲状腺がんの症例数



事故が起きた時は、未だソ連邦でしたが、ソ連邦が崩壊（1991年）し、チリノブイリはウクライナ共和国になり北側がベラルーシ共和国となって隣接した独立国となりましたが、事故当時南東の風が吹いていたので、火災で上空に吹き上げられた放射能を帯びた灰や粒子が北側にあったベラルーシに大量の放射能を帯びた灰が降り、汚染した。さらに悪いことにはソ連政府は沈黙したままで、何の対策も執らなかったため、より被害を大きくしてしまっただけです。

原発は火災となり約10日間燃え続け、その間消火にあたった消防士や兵士は通常の火災として対処したため、後に被曝症で大勢の人々が命を落としたのですがソ連政府は全く沈黙したままですから、詳細は分かりません。従って各種の数値が発表されていますが、西側が調査した推定の数値になります。

5～6年後に子供達の甲状腺癌が大量発生したという報告があり、この時ベラルーシは西側との窓口が開いていたので、このニュースは世界駆け巡り、驚かせました。

甲状腺の働きと症状を述べます。

甲状腺とは男性は首の付け根あたり、女性は首の真中あたりにあり、大きさは男女とも幅約2cm、長さ約4cm程の臓器で、その役割は様々なホルモンの生成、分泌、を行い、肝臓などの内臓器官に信号をおくって代謝の維持を行う重要な器官ですから、甲状腺は別名「内分泌腺」と呼ばれております。

内分泌腺には、甲状腺の他に、脳下垂体、副甲状腺、膵臓、副腎、精巣、卵巣等があります。

ホルモンは内分泌腺で作られて、血液の流れに乗って体中を周り、様々な作用を働く、

